



5月中旬、3学年の学校設定科目「コミュニティデザイン演習」では、南米パラグアイで日本の伝統工芸であり『切り絵』の作家として活動されている立川いずみさんを講師に迎えて、「10年前には名前も知らなかった国で、『切り絵』作家になりました。」というテーマでお話をいただきました。日本ではポピュラーな『切り絵』ですが、なんとパラグアイでの認知度はゼロだったそうです。そこで立川さんは「パラグアイで『切り絵』を知ってもらうためには」と考えられ、パラグアイには昔から薬草文化があることや、女性の仕事として受け継がれてきたパラグアイを代表する手工芸品のニャンドゥティ、現地特有の牛などをヒントに、薬草とニャンドゥティ、動物をモチーフにしたデザインを取り入れ「パラグアイを表現する」ことにしたそうです。そうすると徐々に認知されていき、『切り絵』教室や作品の依頼が増えていったそうです。そして現在は、現地のパラグアイ人デザイナーとコラボしてファッションショーに携わるまでになっておられ、その発想の転換と着眼点について楽しくお話をいただきました。

また、『切り絵』を始めてから現在の活躍に至るまでの苦労した道のりやパラグアイへ移り住んだ経緯などをお話いただきました。最後、「マイプロジェクト」に取り組んでいる生徒に対して「チャンスが来た時にそのチャンスを掴めるように、今、目の前にある自分のやるべきことを全力でやってください」とエールを送ってもらうことができ、とても有意義な講演を聴くことができました。

